

2013.10.17

「あっぱれ脇雅史参院幹事長」

こんにちは、参議院議員の西田昌司です。今日は6月17日木曜日です。今日から参議院でも本会議、安倍総理の所信表明に対する代表質問が始まりました。今日と明日、2日間の予定で代表質問を行います。今日は我々自民党を代表致しまして、脇雅史参議院幹事長が質問に立たれました。この質問はyoutube等で是非ご覧になって頂きたいと思います。我々は安倍総理を支える与党ですが、参議院の立場からしっかり正すべきは正していく姿勢を明らかにした本当に格調高い質問でした。

特にT P Pや公務員制度改革、デフレ脱却、安全保障につきましては見事な指摘でした。T P Pについては「そもそも自由貿易と言うのは、単に物を貿易することが良いと言うだけではないはずだ。それにとらわれては本当に守るべきものを失ってしまう。自由貿易にとられるべきではない。」と言う全くもって保守政党として当然のことを仰いました。

そして、デフレ脱却につきましても小さな政府論では出来ず、しっかり財政出動をしていかなければなりません。公務員制度改革は一体誰のために、誰と戦うのかと言うことです。正に戦う公務員をつくるというフレーズですが、私はそこに合いの手を入れ、馬鹿な政治家と戦うべきだと言いました。正に民主党政権の時代、政治主導の名の下に、法律で何の権限もない事まで政府が全て

牛耳って、国をあらぬ方向に導き、本当にとんでもない所までいきました。

そこで抵抗することが役人の仕事です。いくら大臣が「やれ。」と言っても「間違った事は出来ません。」と言うべきです。そして、それは法律上認められています。その為の身分を保証されているのが公務員であります。

しかし、実際には抗う事が出来なく、とんでもない事になったと言う事です。その典型例がJAL問題です。JAL問題の一番の問題は、役人がもう少し公平な観点で事業再生を行っていれば、いわゆるANAに対して、不当な利益を上げると言う不当な競争環境は勿論、第三者増資によって不当な利益が京セラや大和証券グループに渡る事ありません。そして、いわゆる上場してからは、世界最高の航空会社と常に利益を出し、株主の5割が今は外国人であると言うことです。結局は税金で助けたANAの利益は、海外に持っていかれていくという不道德な事になりました。これを阻止出来なかった原因は、公務員が当時の政権、政治家に逆らえなかったからです。

我々が危惧していることは、そういったことがまた起きないとも限らないということです。「その時にしっかり戦えるのか。そこを担保しなければならない。」と言うことを脇幹事長は仰いまして、正にその通りだと思います。そして、日本とアメリカはとても重要ではありますが、一体いつまで外国の基地を置いておくのか、ということをしつかりと指摘されました。

これに対し、総理からは明確な回答はありませんでしたが、参議院の立場で

こういったことを言い続けていかなければならないと思います。与党や野党であっても、我々参議院は長期的な任期を頂き、総理大臣によって任期を奪い取ることもできません。衆議院には解散権がありますので、任期を奪い取ることはできますが、我々はそうではありません。そのように考えたときに、与党であっても、総理の言うことを唯々諾々と了承するのではなく、問題点は指摘し、その中でしっかり議論をしていくことによって、総理を支えていくことができると思います。そういった姿勢で質問した脇雅史参議院幹事長は、本当に立派だったと思います。是非、そういったところを皆様方にも youtube 等でご覧になって頂きたいです。また、今回私は、財政金融委員会の筆頭理事とデフレ脱却・財政再建のための調査会の筆頭理事を引き受けることになっています。そこで特にデフレ脱却と財政再建については安倍内閣が掲げている一番大切な問題です。調査会を立ち上げ、有識者を交えた議論を行い、安倍総理に対して提言させて頂きたいと思います。この二つの委員会と調査会で、筆頭理事に就任致しますと、各派の意見の取りまとめをしなければなりません。また、党の副幹事長と致しましては、役員連絡会・副幹事長会議等会議が多くなり、今日もようやくビデオレターを更新することができました。会議等で時間が取られ、忙しい思いを致しております。裏方で仕事が増えましたので、国会質問のような皆様方に見て頂く機会は減りますが、しっかりと裏方で言うべきことは言い、正すべきことは正していきながら、安倍内閣を支えていきたいと思っています。

ので、showyou ビデオレター等で私の活動を皆様方にご支援頂ければと思います。

本日も御覧頂きありがとうございました。